

くまがや 市議会だより

Kumagaya City Council Newsletter

9月定例会
平成20年11月1日発行

第13号

問い合わせ 熊谷市議会事務局 〒360-8601 埼玉県熊谷市宮町二丁目47番地1 ☎048-524-1111(内線412~416)
E-mail gikaijimukyoku@city.kumagaya.lg.jp http://www.city.kumagaya.lg.jp/shigikai/

熊谷えびす祭ではダンスイベント「オ・ドーレ
なおざね」が開催されます。お馴染みの「ロック
なおざね」などの曲と踊りによってダンスを披露
する市民参加型イベントです。
第七回の開催となる本年は、十一月三日に開催
されます。



オ・ドーレなおざね (第2回熊谷市観光写真コンクール応募作品 中島敬忠氏 撮影)

主な内容

- ☆九月定例会の概要・・・・・・・・・・・・・2
- ☆可決された主な議案・・・・・・・・・・・・・2
- ☆一般質問(要旨)・・・・・・・・・・・・・3
- ☆請願の審査結果・・・・・・・・・・・・・7
- ☆関係機関に意見書を提出・・・・・・・・・・・・・7
- ☆委員会での主な質疑・・・・・・・・・・・・・8

12月定例会から議会中継がスタートします!

議会を傍聴しましょう。次の定例会は12月1日からの予定です。

熊谷市議会は「チーム・マイナス6%」に登録し温暖化防止に取り組んでいます。



9月 定例会

一般会計 1億9860万1000円を補正 「ふるさと熊谷の祭り応援基金条例」などを可決



九月市議会定例会は、九月三日から九月二十四日までの十二日間を会期として開かれました。

この議会では、「ふるさと熊谷の祭り応援基金条例」などの市長提出議案十五件を審査し、十三件を原案可決、二件の人事案件に同意しました。

また、議員提出議案および委員会提出議案を原案どおり可決しました。

さらに請願二件について審査しました。

九月定例会の概要

初日（九月三日）の本会議では、市長から「今回の本市の暑さ対策全体が全国的にも先進的な取り組みであるという内外の評価をいただき、広く全国のマスメディアの大きな関心を呼ぶこととなった。

あつぱれ！熊谷流事業の中でとりわけ関心が高かった事業では、『冷却ミスト事業』と『熱中症予防情報発信事業』が挙げられるが、暑さ日本一ということだけでなく、暑さ対策の先進都市として、全国への情報発信に多大な効果があったものと考えている。

今回の補正予算案は、緊急に対応を要する経費、および国・県補助金等の内定に伴う事業費等を補正するものである。一般会計補正予算の主なもの

は、民生費では、自転車盗難対策として、被害が多く発生している籠原駅南口無料自転車駐留場に防犯カメラを設置するための経費、市内二カ所の民間保育園における子育て支援センターの整備に対する補助金を計上するほか、教育費では、『スクールソーシャルワーカー活用事業』や『小学校理科支援員配置事業』等

に取り組むための経費、来年度建築予定の中条小学校屋内運動場の設計委託料を計上するものである。

また、特別会計では、下水道特別会計、老人保健特別会計および土地区画整理事業特別会計の三つの会計において、それぞれの所要額を計上し、また、一般議案では、熊谷うちわ祭等の振興を図り、魅力あるふるさとの活性化に資す

るための『ふるさと熊谷の祭り応援基金条例』などを提案している。』旨が述べられました。

八日の本会議では、条例案や補正予算案に対する質疑が行われました。そして、各議案および請願が、所管の常任委員会に付託されました。

なお、平成十九年度の各会計歳入歳出決算は、議会閉会中に審査されることになりました。

九日には、総務文教常任委員会および福祉環境常任委員会において、また、十日には、市民産業常任委員会および都市建設常任委員会において、付託された議案等について審査が行われました。

十六日、十七日、十八日の三日間は、二十二人の議員による市政に関する一般質問を行いました。

最終日（二十四日）の本会議では、各常任委員長から案件審査の経過および結果が報告され、質疑、討論を行い、市長提出議案をすべて原案どおり可決しました。また、議員提出議案および委員会提出議案を原案どおり可決したほか、人事案件に同意し、九月定例会は閉会しました。

可決された主な議案

◇ふるさと熊谷の祭り応援基金条例

熊谷うちわ祭等の振興を図り、魅力あるふるさとの活性化に資するため、ふるさと熊谷の祭り応援基金を設置するものです。

◇工事請負契約の締結について

熊谷市平戸中継ポンプ場ポンプ・電気設備改築更新工事の請負契約を締結するものです。

◇人権擁護委員候補者の推薦に同意

茂木 優氏
須長 民子氏



熊谷うちわ祭



星溪園

市政、ここが知りたい!

一般質問 (要旨)

9月定例会では、次の22人の議員により、市政に関する一般質問が行われました。数多くの質問の中から、1人の議員につき1項目を選び、質問と答弁の要旨をご紹介します。なお、答弁文末の()内は、主な所管課です。

電子申請について

松本 富男 議員

問

①電子申請でできることは何か、またその申請状況について②住民基本台帳カードの発行を増やす努力はしているのか、それぞれ伺いたい。

答

①埼玉県と県内四十二市町で共同運営している電子申請システムにおいて、市民課所管では、住民票の写しの請求等六種類で、平成十九年度の利用件数は三件、環境衛生課所管では、犬の登録・死亡の届出等六種類で、利用件数は二件である。本市独自で導入している手続きなど、総体の利用件数は五万八千六百四十九件である。②住基カードは電子政府・電子自治体の基礎であり、住民サービスの向上や利便性の向上、行政事務の効率化を推進するものであることから、市報、ホームページによる広報やパンフレット等の配布により随時、周知、啓発を行っている。

○その他の質問項目

(情報政策課)
「新しい公について」ほか

行田市との合併について

三浦 和一 議員

問

①現在進めている特例市と中核市では、どのようなところが違うのか②行田市との合併を現時点では、どのように考えているのか、それぞれ伺いたい。

答

①特例市と中核市の違いは、人口要件が、特例市の二十万人以上に対し、中核市は三十万人以上となっている。また、特例市に比べて権限移譲の範囲が拡大する点とともに、民生、保健衛生、地方教育行政などの権限が新たに移譲されることとなる。②特例市への移行により本市の基礎固めをしっかり行いながら、時代の変革や厳しさを増す都市間競争に勝ち残れる熊谷市の構築を目指している。そのうえで、行田市との合併については、同市の意向を尊重するとともに機運の醸成を見極め、慎重に対応していきたいと考えている。

○その他の質問項目

(企画課)
「災害用井戸の設置について」ほか

ワーク・ライフ・

バランスについて

黒澤 三千夫 議員

問

①仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)憲章に対する本市のとりえ方は②行動指針に示されている三つの条件に対する本市の取り組み状況は、それぞれ伺いたい。

答

①ワーク・ライフ・バランスを推進していくことは、少子高齢社会の進行、仕事と子育てや介護との両立問題等、さまざまな課題を、解決していくための重要な取り組みであるとともに、男女共同参画社会の推進にもつながる施策と考えている。したがって、ワーク・ライフ・バランス憲章はその施策の取り組むべき基本方針としてとらえている。②条件の一つである「就労による経済的自立が可能な社会」の実現については、適性診断やカウンセリング、母子家庭自立支援給付金制度を、「健康で豊かな生活のための時間が確保できる社会」に推し進める。仕事と家庭の両立推進セミナーを、それぞれ実施し、「多様な働き方、生き方が選択できる社会」については今

年七月にファミリースポーツセンターを開設し、また、高年齢者就職支援セミナーの開催を予定している。

○その他の質問項目

(男女共同参画室)
「ヒートアイランド対策について(その2)」ほか

原油高騰に伴う緊急対策について

高橋 初 議員

問

原油の高騰によつて被害を受けた①所得の少ない市民への緊急対策②施設園芸農家への緊急対策、酪農家への支援策③中小業者への支援策が必要ではないか、それぞれ伺いたい。

答

①今後の原油価格の推移とその影響を引き続き注視するとともに、低所得者に対する県の支援策や他市の状況等を勘案し、対応していきたい。②国および県においては、従来の補助事業に加え、省エネ設備の導入や国産原材料への転換を内容とした緊急対策の拡充を検討している。融資資金については、本市としても借入資金に利子補給を行ってきたが、今後見直しについて検討していきたい。③昨年十月、新たに手続きの

迅速化が図れる一般事業資金を創設するとともに、小口事業資金の限度額を引きあげたところである。

○その他の質問項目
「熊谷市の交通政策について」ほか

災害から市民を守るために

大山 美智子 議員

問

自治会を中心に防災組織が作られているが、災害が起きた時には、人材が必要である。自主防災講習の現役世代の受講者を増やすためにも土日・祝日や夜間等の講習が組めないか。

答

本年十月、県主催の自主防災組織リーダー養成講座が本市で開催される。この講座は、本年度、県内五箇所で開催されるが、講師の日程調整等の関係で、各会場とも平日開催となっている。また、市主催の自主防災組織の研修会を本年度中に開催する予定である。開催に当たっては組織間の情報交換や連携が図れるよう、また、若い世代も参加できるような研修環境を作る必要があると考えており、代表の方等のご意見も

考慮しながら日程等を決めていきたい。

○その他の質問項目
「平和教育について」ほか

遊休農地について

須永 宣延 議員

問

①遊休農地の発生要因は何か②全国一斉に耕作放棄地全体調査を行うとのことであるが、熊谷市はどのように取り組んでいるのか③遊休農地の解消対策は④市民農園開設の手続きはどのようなものか、それぞれ伺いたい。

答

①農畜産物価格低迷に伴う生産意欲の低下、農業従事者の高齢化や兼業化等が主な要因と思われる。②農業委員で組織する遊休農地解消対策委員会に、主に耕作放棄地の調査に関すること、また熊谷市担い手育成協議会に、主に解消方策に関することを諮り、決定いただきたいと考えている。③国の耕作放棄地解消支援ガイドラインでは、所有者自らの耕作再開、担い手等借り手による耕作、企業等の新規参入等が挙げられている。④権利設定のない農園

利用方式では、利用者との利用契約で開設できる。市民農園も、今後の遊休農地解消の一方策と考えている。

○その他の質問項目
「農業支援について」ほか

ビオトープで自然を取り戻そう

森 新一 議員

問

①小中学校でのビオトープを含め、生物の生態系に関する環境教育や環境保全の取り組み状況②農業用水路のビオトープの取り組み③今後の取り組み計画④設置していない学校に普及させる考えは、それぞれ伺いたい。

答

①現在、小中学校合わせて、十二校にビオトープがあり、自然への関心や環境保全に対する態度を高めている。②江南地域で用水路を利用した水辺環境整備として、生態系保全水路、親水施設等を整備した。また、箱田用水路に魚類の生息場所を設置した。③熊谷中央地区の排水路に魚類の生息場所を設置する計画となっている。④自然とふれあう場の一つとして、学校に働きかけていきたい。(学校教育課)

○その他の質問項目
「援農支援事業農業サポーターバンクの設立を」

学校給食法改正と給食費について

小林 甚一 議員

問

①地場産物や郷土食の普及率と活用状況②小中学校の栄養教諭の数③JA直売所から多品目の農産物の提供ができないか④物価高で給食費を値上げする考えは⑤飯食の増食ができないか⑥栄養の改善から食育への転換について、研究会が開かれているのか、それぞれ伺いたい。



本市特産のネギ

答

①米飯は一〇〇%熊谷産のキヌヒカリ、うどんやパンなどは県内産小麦一〇〇%または五〇%のものを

使用し、ネギ等は恒常的に熊谷産を取り入れている。また地元産を使用した献立の工夫を行っている。②現在、本市への配置はない。③JA直売所では給食センターの必要量が賄いきれない。④来年度以降の給食費について検討していく。⑤保護者の意見を伺うことと給食費改定の調査検討を併せて行う必要がある。⑥食育の全体計画を作成し、指導しており、給食関係者の研究協議会等でも食育を推進していく。

○その他の質問項目
「小・中学校のプールの型式と使用日数、管理及び消毒剤について」

熊谷南部開発構想の終結について

新井 昭安 議員

問

①熊谷南部開発構想と②南部地域開発推進室の役割と実績③熊谷南部地域開発推進協議会の役割と実績④実現できなかった理由は、それぞれ伺いたい。

答

①南部地域の産・学・性の高いまちづくりを目指し、昭和五十年代から、県とともに

に事業化を図ってきたものである。②市としても、県、公団とともに地元説明会や大手ゼネコン、金融機関等との研究会、そして、企業に対するヒアリング調査等に取り組んできた。③事業化に向け、国、県、旧住宅・都市整備公団に対する要望活動や研究を行ってきた。④当初から雨水排水、埋蔵文化財等の課題も多く、バブル期以降の社会、経済情勢の変化や公団の撤退、民間の参加が困難な状況となったためである。

○その他の質問項目
「熊谷吉岡工業団地の整備課題について」

行財政改革について その四

大嶋 和 浩 議員

問 導入を予定している「人事評価制度」について、
①これまでの制度と異なる点や見込める効果等の制度内容
②近隣他市の導入状況について、それぞれ伺いたい。

答 ①従来の評価方法と比較すると能力評価と業績評価という二つの側面から評価すること、職員との面談を行い双方の理解を深めるこ

とが重要な要素となっている。評価の目的は職員の士気の高揚による市民サービスの向上であり、評価基準の明確化による透明性・客観性の確保、評価者研修の充実等が課題である。②本年四月現在で、評価結果を昇給に反映させている市は四十市中、十市であり、勤勉手当に反映させている市は十二市である。

増税と市民の暮らしにかかわる問題について

林 真佐子 議員

問 ①これまでの障害者控除対象者認定書の発行件数は②来年の申告時に介護認定を受けている対象者全員に交付することが基本と考えるかどうか、それぞれ伺いたい。

答 ①平成十八年度は認定申請二十八件に対し、二十七件の交付、十九年度は申請、交付ともに二十六件である。本年度は、現時点で一件の申請に交付している。②認定書の交付については、ケ

アマネージャーや民生委員に本人の状況を確認するほか、介護保険の認定状況を参考に総合的に判断している。このため、介護保険の介護度により一律に認定することは難しく、介護認定を受けている方全員を対象とすることは困難であると考えている。

今年度見直しの熊谷市障害福祉計画について

桜井 くるみ 議員

問 入院中の精神障害者の地域生活への移行は、どのように行っていくのか。また、退院後の受け皿は十分と云えるのか、伺いたい。

答 本事業は、県が病状の安定している入院中の精神障害者に対し、退院促進に向けたプログラムを実践し、地域社会への移行を支援することになっていく。平成二十三年度までの退院可能者を二十四人と見込んでおり、本市でも受入れ先等との調整を行い地域での生活が定着できるように支援していく。また、退院後の住居は、家庭に戻ることやグループホーム等の共同

生活施設が考えられる。市では、施設の利用状況を把握するとともに必要な福祉サービスを提供し、地域で安心して生活できるよう支援していく。(障害福祉課)

○その他の質問項目
「父子家庭にも支援策の拡充を」ほか

今後の本市農業は、どのような強い意志のもとに目指す方向はどこですか

杉田 茂実 議員

問 ①農業振興地域整備計画画策定事業調査業務委託の進捗状況②本調査により市民への食料供給能力が分かるか③本調査をまとめる組織は④計画策定に県の関与がある場合、市の独自性は実現できるか⑤消費者に対する調査は行うか、それぞれ伺いたい。

答 ①現在、本計画の素案作成及び農家意向調査アンケートの調査項目を検討中である。②農産物の生産数量の調査項目があり、試算は可能である。③本業務推進会議を設置している。④法律で県知事との協議および同意が必要だが、農業振興上の施策等については市の独自性は実現できるものと考ええる。⑤来年度の整備計画策定事業の中

で検討していく。(農業振興課)

子育て支援について (赤ちゃん駅の設置)

谷 幸代 議員

問 乳幼児を抱えるお母さんが外出した際に、授乳できる施設「赤ちゃん駅」を設置できないか。



本庁舎の授乳室

答 本市では、平成十六年度に授乳室を設置したところであり、これが「赤ちゃん駅」と考えている。しかし、この授乳室は利用されにくい状況であることから、利用す

る方にすぐに分かるように、また、明るい雰囲気授乳室に改善していきたい。今後は、既に設置している他市での利用状況等を勘案しながら、子育て中の方々の声を聞くなど、授乳室等が必要であると考えられる公共施設等に「赤ちゃん駅」の設置を検討していく。

○その他の質問項目

「環境行政について（ごみの減量化について）」ほか

夏の「あっぱれ熊谷流」に対応する、冬の「熊谷流」について

吉原 邦陽 議員

問

①冬の「熊谷流」の取り組み②小・中学校の校庭へのスプリングクラー設置の考え方③現在の整備状況④今後の計画について、それぞれ伺いたい。

答

①本市では、全国から選手が集まる大きなスポーツイベントが開催され、市民によるさまざまな応援活動も展開されていることから、新たなキーワード等を探りながら、冬のコンセプトについても検討を始めている。②土ほこり対策に一定の効果があることができると考えている。③固定式は小学校一校、

移動式は小学校十六校、中学校二校保有し、小学校十一校、中学校一校が使用している。残りの六校はホース等で対応しているため、使用していない。④各学校の使用頻度に差があり、校庭や周辺の状況も異なることから、学校と協議しながら対応していきたい。（教育総務課）

○その他の質問項目

「身近なところに当たり前に芝生がある社会に向けて」

観光行政(まつり会館)について

山田 忠之 議員

問

①市で把握している本市の祭りの数②来客数の推移③祭りの価値および波及効果④熊谷まつり会館の設置について、それぞれ伺いたい。

答

①各地域で運営されているが、助成を行っている祭りは十六である。②祭り、スポーツ観戦、道の駅利用客などを含め、平成十六年が三百八十八万人、十七年が四百二十万人、十八年が四百二十五万人である。③歴史や伝統に裏打ちされた四季折々の各種祭りは、観光振興を図るうえからも、非常に重要と考えてい

る。また、祭りを中心として交流人口の拡大を図ることは、観光、商業の進展、イメージアップ、郷土意識や連帯意識の醸成といった地域の活性化の観点からも大きな役割を果たしている。④設置費用やランニングコストなどの課題を踏まえつつ、研究していく。（商業観光課）

○その他の質問項目

「姉妹都市について」

入札について

笠原 秀雄 議員

問

地元業者の経営安定のため、①設計価格等の積算では経費の高騰分に対処しているのか②下請業者の市内業者選定割合を定められないか③市内代理店の入札参加制限④地場企業育成の考え方について、それぞれ伺いたい。

答

①県の単価をもとに算出しており、単価は定期的に改定が行われているため、実勢価格に近いと認識している。②応札業者にとつて落札できるかが未確定の段階であり難しいと考える。③市内本店業者のみでは、業者数が確保できず競争性が保てないなどの問題点もあり、指名

業者選定等委員会の選定の中で対応したい。④市内業者優先を基本とし、また下請契約や建設資材の納入では、約款の趣旨を徹底し市内業者の選定に努めるように指導していきたい。（契約室）

○その他の質問項目

「あつさはれば熊谷流について」

仮称ムサントミヨの水の企画販売について

磯崎 修 議員

問

①環境省の名水百選の名水百選②「平成の名水百選」に選ばれた記念にこの水売り出すべきではないか③何か事業を行う予定はあるのか、それぞれ伺いたい。

答

①水環境保全の一層の推進を図ることを目的に、地域の生活に溶け込んでいる清澄な水環境の中で、特に地域住民等による主体的かつ持続的な水環境の保全活動が行われているものと定義されている。②飲料水としての水質管理や、ムサントミヨ保護団体への説明と理解、ポンプの管理者である県との調整等さまざまな課題を踏まえ研究していきたい。③観光協会

のホームページを活用し、全国発信するとともに、観光ガイドブック等での紹介では「平成の名水百選」を冠し、稀少生物の保護に配慮しながら観光モデルコースの設定を検討していきたい。（商業観光課）

○その他の質問項目

「ごみ収集運搬業務の民間委託の進捗状況と今後について」



平成の名水百選に選ばれた元荒川

体育施設の維持管理について

富岡 信吾 議員

問

①大里、江南体育施設の修繕費等の見直しについて②市と利用団体等がパートナーとなりグラウンドコンディションを良好に維持し

ていく「グラウンドサポート制度」を確立してはどうか、それぞれ伺いたい。

答 ①昨年度、大里体育施設ではトイレ等の修理、グラウンド照明のランプ交換等を行い、江南体育施設では、窓ガラスやトイレ、非常用発電機等の修理を行った。今年度についても随時修繕を行い、体育の利用に支障のないよう維持管理を行っていききたい。

②現在、利用者がコートブラシ等を使い、施設利用後に整地等の整備を行っている。ご提案のグラウンドサポート制度については、グラウンド利用者のマナー向上や施設の維持管理に大変効果があるものと考えており、検討していききたい。

○その他の質問項目
(保健体育課)
○その他の質問項目
「廃棄物の処分について」

自治体内分権と官民協働について

田島道夫 議員

問 地域における諸課題について地域のさまざまな活動団体が主体的に担っていく「自治体内分権」について、市の考え方を伺いたい。

答 市町村の行財政運営を取り巻く状況が急速に変化し、ますます複雑多様化する住民ニーズへのきめ細かい対応が難しい状況となる中、自治体内分権の考え方は大変重要なものと考えている。自治体内分権の推進に当たっては、地域における諸課題を、地域の实情に応じてそれぞれの創意工夫により、自ら解決に向けて活動していただくことが重要となる。そして、行政にはその活動に対し、最大限支援できるような体制を整えていく官民協働のまちづくりが求められている。そこで、自治会等のさまざまな活動団体で構成される校区連絡会を、自治体内分権を進めていくための受け皿となるよう、その体制整備の支援に努めているところである。

(行政改革推進室)

公共施設等の建設・維持について

加藤恒男 議員

問 公共施設等の建設や維持管理、運営等を民間事業者の持つ資金、経営能力および技術力を活用して行うPFI事業の実施について、市の考え方を伺いたい。

答 PFIを導入した事業数は国、地方公共団体の合計で二百六十六事業となっており、件数、事業規模等、着実に伸展しているが、政令指定都市を除く市区町村では、千八百二十七団体の九十団体と、一般的な手法として普及していない状況である。このような中、PFIは地方財政の健全化や地域活性化等、自治体が抱えるさまざまな政策課題に対応する手法の一つとしてその活用が考えられている。本市においても、教育施設を含めた公共施設等の整備に当たり、PFI手法を選択肢の一つに加え、導入の可能性について研究していく。

○その他の質問項目
(企画課)
「駐車禁止取締りの現状」

旧市立女子校施設における保健師、助産師及び看護師教育校の誘致について

滝沢肇 議員

問 ①市立女子高校跡地への学校誘致の現況②保健師、助産師および看護師等になるための教育校の誘致について、それぞれ伺いたい。

答 ①私立高校の誘致を優先的に進め、市立女子

地条件等について問い合わせがあり、積極的に対応してきたが、残念ながら具体的な協議には至らなかった。現在、県等から誘致に当たって必要な情報を得るとともに、附属校の建設を検討している有名私立大学等へ、同校の跡地情報を提供し、候補地として積極的にPRを図っている。②ご提案の教育施設については、平成十九年に施行された改正都市計画法により、開発許可制度の見直しが行われたことから、立地は困難である。今後とも、私立高校の誘致について鋭意努めていきたい。

○その他の質問項目
(政策調査課)
「農山漁村活性化法とその活用について」ほか



旧市立女子高校

請願の審査結果

九月定例会では、次の請願を審査しました。

◇「協同労働の協同組合法仮称」の速やかな制定を求める意見書」の提出を求める請願
(審査結果・採択)

◇「消費税の税率引き上げ反対を求める意見書」の提出を求める請願
(審査結果・不採択)

関係機関に意見書を提出

九月定例会では次の意見書を議員提出議案および委員会提出議案として上程し、原案どおり可決しました。

なお、可決した意見書は、関係機関に提出されました。

◇原油価額高騰に対する緊急対策を求める意見書

◇「協同労働の協同組合法(仮称)」の法制化を求める意見書

委員会での主な質疑

総務文教常任委員会

一般会計補正予算

(教育費) について

問

小学校理科支援員配置事業について、支援員は希望のある小学校に五名を配置することだが、全部で何回配置を予定しているのか。また、理科の授業に限ったの支援となった背景についても、伺いたい。

答

支援員五名は、一人につき三十回で合計百五十回の配置を考えている。また、理科の支援となった背景については、現在、子供たちの理科離れが進んでいると言われており、実験、観察などを通して、より理科に興味、関心、意欲を持ってもらうことと理解している。
(所管課・学校教育課)

福祉環境常任委員会

熊谷市墓地、埋葬等に関する法律施行条例の一部を改正する条例について

問

熊谷市墓地、埋葬等に関する法律施行条例は平成十五年四月一日施行であ

るが、今回の条例の変更内容を伺いたい。

答

今回の改正は、公益法人制度改革の一環として、経営の基準にかかわるものとなっている。これまで、公益法人の設立については、現行の民法第三十四条が根拠となっていたが、民法第三十四条が削除になり、新しい法律である、『公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律』の施行に伴うものである。
(所管課・環境衛生課)

市民産業常任委員会

ふるさと熊谷の祭り応援基金条例について

問

①第一条の規定中、『熊谷うちわ祭り等の振興を図り』の部分で、「等」が想定している具体的な祭りの範囲は②今回の基金を原資として寄附金の受け皿としていくことにし、特定の祭りを想定した寄附の申し出があった場合の対応は、それぞれ伺いたい。

答

①熊谷さくら祭、めぬま祭、おおさと祭、こま祭、おん祭等、本市観光協会から補助が行われている祭かどうかを基準に考えている。

②対象とする祭りを特定した寄附があった場合は、その趣旨を尊重していきたい。
(所管課・商業観光課)

都市建設常任委員会

一般会計補正予算

(土木費) について

問

「あっぱれ・扇げ・熊谷百年の森づくり事業」の植樹内容について伺いたい。

答

常緑樹・落葉樹など同一の樹種にならないよう、いろいろな樹種を一平方メートル当たり三本程度密植し、成長の過程で弱くなった木を取り除く、自然に近い私たちの森づくりを行うものである。
(所管課・公園緑地課)



お知らせ

市議会本会議のインターネット中継が始まります！

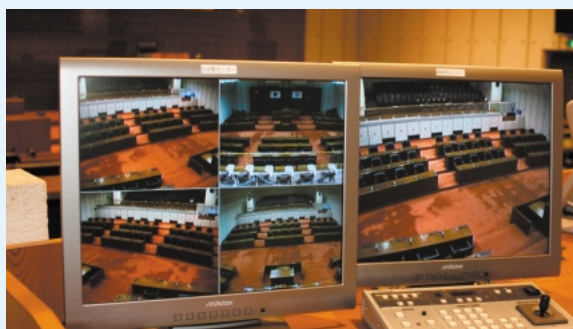
市議会では、開かれた議会を目指して、より多くの皆さんに市議会本会議をご覧いただくために、インターネットを通して本会議の様子を映像配信します。熊谷市議会ホームページ [熊谷市議会](#) [検索](#)

放映時期

・平成20年第4回定例会 (12月から)

放映形式

・生中継 (本会議開催時間中の放映)
・録画中継 (各定例会終了後)



会議録の閲覧について

市議会では、本会議の様態を記録した会議録を作成しています。

9月定例会の会議録は、議会事務局、市役所情報公開コーナー、行政センター、図書館、市議会ホームページなどで12月上旬から閲覧できます。

詳しいことは、議会事務局までお問い合わせください。

編集だより

ここに、市議会だより第十三号をお届けいたします。本号では、一般質問の要旨をはじめとする九月定例会の概要等を紹介しました。

これからも市民の皆さんと市議会を結ぶ紙面づくりを目指してまいりますので、お気づきの点がありましたら、ご意見等をお寄せください。

議会報編集委員

- ◎泉 二良 ○松本貢市郎
- 加賀崎千秋 田島 道夫
- 山田 忠之 林 真佐子
- 並木 正一 三浦 和一
- 加藤 恒男
- (◎委員長 ○副委員長)

